

蛾ヶ岳&七面山山行報告

【山行日】2021年 11月 27~28日(土日)

【集 合】岩舟支所P AM 6:00

【費 用】マイカー1台 : 13,700円

【メンバー】CL:鈴木 SL大西

石澤、清水カ、関、廣瀬、福島、

27日 晴れ 四尾連湖Pから蛾ヶ岳に登り、富士山の眺望を楽しんだ後四尾連湖Pに下る。身延山の久遠寺を参拝し、七面山羽衣登山口の増田屋旅館に宿泊。

岩舟支所P6:00=四尾連湖 P9:00/9:20~大島東肩

9:50~蛾ヶ岳 10:55/11:10~大島東肩 11:35~

大島山 11:45/12:20~四尾連湖 12:40/12:50~

四尾連湖P13:00/13:15=身延山久遠寺 14:00/14:50=増田屋旅館 15:30

七面山は過去2回計画したが、台風により2回とも中止を余儀なくされ中々登れない山だった。3度目の今回は体力の衰えを考慮し、1日目に楽な蛾ヶ岳に登り2日目に七面山に登る計画にする。岩舟支所を6時に出発し東北道から圏央道、中央道と進み、甲府南ICで降りて四尾連湖に向かう。



四尾連湖の駐車場に着くと下の無料駐車場は閉鎖され、直ぐ上の有料駐車場に車を止める。

準備を整えトイレを済ませ、ストレッチを行ってから出発する。駐車場を出て右に進み、ゲートをくぐってすぐに右の登山道に入る。雑木林の中山腹を斜上するように進み、途中で食器を忘れたことに気づき若い清水さんに取りに戻ってもらう。我々は大島東肩の分岐まで登り、分岐で清水さんを待つことにする。

健脚の清水さんが戻って来たが、SLの姿が見当たらない。こんなに早くは戻らないだろうと、大島山まで下見に行ったとの事だった。

大島東肩の分岐からは東に向かい、カラマツ林の緩やかな尾根を登って行く。

所々にカエデの紅葉が残り、紅葉を楽しみながら心地よい尾根歩きが続く。やがて小高山巻道を進むようになり、細い稜線を辿るようになる。しだいに傾斜がきつくなり、蛾ヶ岳の北側斜面をジグザグに登って高度を上げて行く。涸れ沢を過ぎると樹間から四尾連湖が俯瞰でき、まもなく蛾ヶ岳西肩へ着く。精進湖方面との分岐になっており、山頂へは分岐を左に登って行く。直線状の急登が待っており、額に汗して10分程頑張ると頂上に着く。3等三角点の頂上には祠が祀られ、南には富士山の姿が大きく見える。北側には南アルプスや八ヶ岳が眺望でき、眼下には甲府盆地の広がりが望める。展望を楽しみながらリンゴや菓子をいただき、記念写真を撮ったら下山する。下山は往路を戻り、大島山東肩分岐を直進して大島山に向かう。SLが下見した大島山から展望を楽しみ、風が強いので少し戻った陽だまりでランチタイムとする。切株や倒木に腰かけ、キノコうどんを作っておにぎりを美味しくいただいた。



ランチが済んだら下山開始し、分岐まで戻って四尾連峠に向かう。杉や松の広い道を下ると四尾連峠に着き、峠から左に戻るようになると四尾連湖に着いた。湖畔には2軒の山荘が立ち、釣りやボートを楽しむことができる。湖畔のベンチからの景色は素晴らしく、山荘では温かい食事もいただける。



湖畔から左にわずかに登ると駐車場への道に出て、ゲートをくぐると駐車場に着く。靴を履き替えトイレを済ませたら宿に向かうが、時間が早いので身延山久遠寺に寄ることにした。市川三郷町から富士川大橋を渡り、増穂 IC から中部横断道へ入る。今年開通したばかりの身延山 IC で降り、15分程走ると久遠寺総門脇の駐車場に着く。久遠寺は日蓮上人が開山した日蓮宗の総本山の寺院である。

立派な総門をくぐるとここから先は聖域となり、厳かな雰囲気が出てくる。参道を進むと正面に壁のような石段が聳えている。右側には男坂と女坂の2本の参道があるが、山やの意地で壁のような石段を登ることになる。石段を登ってみると見た目以上にきつく、一つの石段が40cm以上あり途中で足が上がりなくなる。若い二人は休まず一気に登れたが、残りの5名は休みながら登る。皆さんが「山を登るよりきついね」と息を切らして言っていた。日蓮宗の総本山だけあり、本堂や祖師堂、五重塔など立派な伽藍が並んでいる。本堂に上がってお参りし、渡り廊下を通して祖師堂も参拝する。我輩の家は日蓮宗の宗教団体に属しており、高校生の時に身延山に団参で登った経験があるが、50年以上前のことであまり記憶に残っていない。参拝が済んだら参道を下り、帰路はゆるやかな女坂を下って駐車場に戻る。駐車場から七面山登山口に向かい、明日の登山口を確かめてから宿に向かった。登山口を確認



し春木川を狭い羽衣橋で渡り、左に進むと今宵の宿増田屋旅館に着く。旅館前の路肩に車を止め、石段を登った上に旅館が立つ。受付を済ませ部屋に案内されて、男女分かれて部屋に落ち着く。早速風呂に浸かり、風呂から上がった後反省会が始まる。H 瀬さんが八海山大吟醸と景虎を用意してくれ、それに合わせて肴は鯛のコブ締めやキュウリとナスの浅漬けでいただく。八海山大吟醸と鯛のコブ締めの相性は抜群で、ドンドン進みすぐに空になる。ビールや景虎が無くなると、夕飯の音が掛かり1階の食堂に行き夕食をいただくが、女将からのサービスで地酒の4合瓶が振舞われる。夕食のおかずを肴に美味しくいただき、かなり飲み過ぎたようで、部屋に戻ったらそのまま布団に入り、明日に備えて早めに就寝する。



28日 快晴 増田屋旅館を出発し、羽衣登山口から表登山道を登り敬慎院を参拝後七面山へ登頂する。山頂先の希望峰に登って南アルプスの眺望を楽しみ、往路を戻って羽衣登山口へ下山する。

増田屋旅館 5:05～羽衣登山口 5:10～肝心坊 5:55/6:05～晴雲坊 7:45/8:00～敬慎院 8:45/9:00～七面山 9:50/9:55～希望峰 11:20/11:30～七面山 10:50～昼食 11:05/11:40～敬慎院 11:50/12:00～晴雲坊 12:40～肝心坊 13:30/13:45～増田屋旅館 14:10/14:30＝岩舟支所P18:45

増田屋旅館 5:05～羽衣登山口 5:10～肝心坊 5:55/6:05～晴雲坊 7:45/8:00～敬慎院 8:45/9:00～七面山 9:50/9:55～希望峰 11:20/11:30～七面山 10:50～昼食 11:05/11:40～敬慎院 11:50/12:00～晴雲坊 12:40～肝心坊 13:30/13:45～増田屋旅館 14:10/14:30＝岩舟支所P18:45

増田屋旅館 5:05～羽衣登山口 5:10～肝心坊 5:55/6:05～晴雲坊 7:45/8:00～敬慎院 8:45/9:00～七面山 9:50/9:55～希望峰 11:20/11:30～七面山 10:50～昼食 11:05/11:40～敬慎院 11:50/12:00～晴雲坊 12:40～肝心坊 13:30/13:45～増田屋旅館 14:10/14:30＝岩舟支所P18:45

朝4時に起床し玄関から外に出ると、空には星が輝いていた。天気予報通り、今日も快晴の登山日和になるようだ。玄関のテーブルに置かれたおにぎりを持って2階に上がり、皆さんにおにぎりを配る。



おにぎりに添えられたメモに、冷蔵庫の中の好きな飲み物を1人1本持って行って下さいと書いてある。我輩はポカリスエットをいただき、皆さんにも好きな飲み物を1本取るよう伝えた。部屋で朝食のおにぎりを食ベトイレを済ませたら外に出て、ヘッドランプを点けストレッチを済ませて出発する。暗闇の中ヘッドランプを頼りに羽衣橋を渡り、登山口から広い参詣道を登って行く。老杉の中ジグザグの参詣道を通るが、本社の敬慎院まで50の丁目燈籠が立ちどのくらい登ったかが分かる。1時間足らずで最初の宿坊肝心坊に着き、休憩舎で小休止して衣服調整を行う。ここからも同じような道を登るが、明るくなると

道端のお堂や立札を読みながら楽しく歩ける。23丁目にある中適坊で休憩し、トイレを借りて水分を補給する。風も無く穏やかな晴天に恵まれ、樹間から富士山や駿河湾を望むことが出来た。この時は駿河湾と分ならず、大きな湖だから本栖湖だと思っていた。同じような参詣道を登り、飽きたころ36丁目の青雲坊に着いた。ここはTV番組の「ぼつんと一軒家」で紹介された宿坊だが、休業中で休憩所を借りて疲れた足を休める。随分登って疲れも出てきて、1丁目毎の石灯籠が待ち遠しくなる。崩落地を丸太の階段で迂回し、やがて急に道が広がって電柱が立ち並んでいる。広い道を進むと「和光関」と書いた大額が掛かった総門に出る。総門をくぐって右に進むと敬慎院の境内に入り、よくまあこんな山の上に大きな伽藍を建てたものだ驚いた。敬慎院は日蓮上人が没後、日蓮の高弟「日郎」が1297年に開いたとされている。本堂の奥には巨大な宿坊が建ち、1000名が宿泊できるそうである。本堂にお参りしていると宿坊から信者の団体が出て来て、本堂前で記念写真を撮ってくれと依頼される。我輩が記念写真を撮ってあげると、全員が頭を下げ丁寧に敬礼をされる。本堂前の階段を登ると立派な隋神門が建ち、門をくぐると御来迎場で富士山の眺望が素晴らしい。ゆっくり富士山の景色を楽しみ、光っていたのが駿河湾だとハッキリとわかった。



富士山の手前を富士川が流れており、駿河湾にそそぐ様子がハッキリと見えるのである。いつまでも見ていたい気持ちを断ち切り、右に進んで七面山へと向かう。荷揚げ用のリフト場から山道に入るが、立派な角を持つ鹿の群れが我々を見つめていた。鹿に見送られながら唐松林の道を行くが、唐松の枝にはサルオガセが下がり神秘的な雰囲気漂い、信仰の山だと実感した。途中、左に明瞭な踏み跡があるので行ってみると、ナナイタガレと言われる大崩落地が眼下に広がっていた。今でも崩落が進んでおり、時折土煙を上げて崩れて行く様子が目の前で起きていた。登山道に戻りブナやモミの樹林帯の

急坂を登ると、小台地の上に標識が立つ七面山山頂に着く。

樹林の中の山頂は展望が無く、ミカンや菓子を食べて記念写真を撮ったらこの先の希望峰に向かう。



樹林帯の道を100mほど下り、100mくらい登り返すと狭い稜線のピーク希望峰に着く。標高は1989mで七面山より高く、南アルプスの眺望がすばらしい。北岳や間ノ岳、塩見岳、荒川三山、聖岳の百名山が雪化粧して競い合っている見える。ご褒美のリンゴを食べながら絶景を楽しみ、景色をカメラに収めたら下山する。下山は往路を戻り七面山で小休止後、ナナイタガレの展望所まで下る。笹原の陽だまりでランチタイムとし、倒木に腰かけてお湯を沸かしカップ麺とおにぎりをいただく。富士山の雄姿を眺めながらのランチは格別で、宿でいただいたおにぎりがとても美味しかった。

御来迎場まで一気に下り、富士山の眺望を楽しんだら隋神門から敬慎院へ階段を下って行く。敬慎院の裏にある一ノ池を見学し、往路を下って行くが先頭二人のスピードが凄まじい。後ろの5人は笑

いながら必死に付いて行く。肝心坊で最後の休憩を取り、休憩所を借りて疲れた足を休める。清水さんと福島さんがトコロテンを注文すると、全員に温かいお茶を振舞ってくれた。我輩が図々しくお代わりをお願いすると、ポットに入れたお茶とチョコレートを出してくれた。熱いお茶を飲みながらもみじまんじゅうとチョコをいただき、奥さんに丁重にお礼を言って下山する。登りは暗闇で見られなかった登山道をしっかり見ながら下り、予定より50分早く登山口に着いた。白糸の滝と紅葉を見ながら羽衣橋を渡り、こんなに景色が素晴らしかったのだと驚いた。増田旅館に無事帰着し、置いて行った荷物を受け取り宿泊費を清算したら帰路につく。



南アルプス街道を進んで下部温泉早川ICから中部横断道へ入り、中央道で渋滞にあったが圏央道は順調に走り、予定より早く岩舟支所に帰着した。